

今週のズバリ こう見る

Analysis

ニューヨーク金市場はQ E3の早期終了観測を主な材料に総弱気ムードになっている。しかし、ここは勇気を持って強気方針で臨みたい。

ニューヨーク金の本格上昇は05年から始まった。ニューヨーク金の月間足を俯瞰すると大きな二段上げの押目を形成していると考えている(一段目は08

安競争を実行している状況下、金価格が下げ続けたことはない。目下の材料はニューヨーク市場がいつ底打ちするかと、金ETFの残高減少がどこで止まるかだが、下げても6月28日の安値を大きく下回らないだろう。

そのようななかで強調したいのは、ニューヨークと東京市場を違う

NYと東京市場の違いを認識 円安が価格を押し上げる公算

GOLD 金



岡地(株) 東京支店 投資相談部 千葉 純平氏

年に設定)。通常、上げ相場は三段上げで1セツトだから、今は三段目の上げ過程にあると考えるべきだ。

何をキッカケに金が三段上げを目指すのか。個人的には、大きな強材料はあとからついてくるもので、特に心配はしていない。そもそも、過去の歴史において、世界中が通貨

視点で捉えること。為替は長期にわたる円高から脱し、日銀の金融緩和策を軸にして、来年には1ドル＝120円の円安を目指す可能性が高い。それだけで、東京金はグラム当たり約1,200円の上昇が見込まれる。従って、東京金はニューヨーク安と円高で下げたところ

安倍政権の緩和策を評価 米景気回復はドル高要因

FOREX 為替



為替アナリスト 大島健一郎氏

参院選の前哨戦である都議会選で自民・公明の与党が全員当選で圧勝、その勢いが参院選へも波及するだろう。もともと、こうした事情を為替市場は織り込みつつある。それ

に対する評価が高いということだ。『アベノミクス』の効果は薄れる』との見方もあるが、株の先高人気や景気回復期待を背景として円安基調が続くと考えるべきだろう。

米国の金融事情を見れば、ドルに対する不安要因として、中国経済の成長鈍化が指摘されているが、同国の経済指標は更に悪化する方向とならず、最悪な状況を想定する必要はなさそう。当面、材料不足になると、中国情勢が不鮮明なこと不安心理を呼び、ドル安

円高になる恐れもあるが、相場を大きく動かすことになるまい。日米の金融事情を考えるとドル高・円安の流れは変わらないと判断するのが妥当だ。

欧州に目を転じれば、欧州各国の経済は低迷が続く可能性が高い。インフレ率が低いこともあり、極めて高い失業率など利下げの余地が十分あるため、ユーロは他の主要通貨に対して弱くならざるを得ない。これもドル高・円安継続の根拠となる。

採算を意識した買い戻し出る 通貨安競争が金価格下支え

GOLD 金



(株)フジミ 本社第二営業部 次長 中西 孝夫氏

金は今中長期的には上昇を予想している。米国の量的緩和縮小見込み、金ETFの保有残高減少が安値の背景で、米国の雇用統計の改善や景況指数の改善などで、今後もニューヨーク金期近が下落することがあろうが、それでも1,150ドル前後にとどまろう。

金価格を押し上げる材料は日米欧の通貨安競争だ。具体的に、日本は円安により一部の大手輸出企業は恩恵を

き、通貨安競争を演じている。複数の国が同時に通貨安競争をしているのは歴史上、初めの上昇をもたらす。一つの国でインフレや国債の金利上昇などを発端にした金融不安が起こると、世界的に連鎖反応が起き、世界経済が混乱する恐れがある。

ここ3年間の東京金期先の動きを見ると、4,000円を割ると、3,800円近辺から4,500円近くまで反発している。金の採算コスト1,200ドルを意識した買い戻しが出ると、4,500円超は現実的だ。